

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年  
2月2日  
第145号



## エソヘビイチゴ (バラ科)

園内、自然植物区入口のハマナツメの下あたりで、白く可愛い花が見られます。ヨーロッパ北部とアジアの北部、北米に分布し、名前の由来でもある北海道に帰化しました。英語名のワイルドストロベリーの名のほうが耳慣れていますね。16世紀に大粒のオランダイチゴが普及するまで、栽培されていました。果実は小型で酸味が少なく、甘くて香りが強いのでジャムやジュースに、また、そのまま生食もします。葉はハーブティーにもします。ヨーロッパでは、葉を利尿、鎮痙、痛風、腎臓結石、胆石に用いたり、歯垢取りにも利用されてるようです。中医学では全草が野草莓yěcǎoméiという名の生薬となり、清熱解毒、補肺利咽を目的に、感冒、咳嗽、咽喉腫痛などに使用するそうです。

なお、本種の名称に含まれているヘビイチゴは、同じバラ科の植物ですが、別の属で、果実もあまり甘くはありません。

## セイヨウハシバミ (カバノキ科)

園内、管理棟の北側、フェンス沿いに、雄花序はたくさんぶら下がっているのが見られます。種子がヘーゼルナッツと呼ばれて食用となる、ヨーロッパから地中海領域原産の低木です。ヘーゼルナッツは、ケーキやチョコレートなどの材料としてよく使用されていますね。本種は薬用植物としても、ヨーロッパでの民間で、種子が強壯を目的に使用されるほか、根が収れん、樹皮が解熱、葉が瀉下や前立腺肥大の緩和を目的に、さらに葉から得られる精油が駆虫を目的に使用されるそうです。

本種は東アジアでは薬用とする記録は見られませんが、中医学では近縁植物のハシバミの果実が川榛chuānzhēnという名の生薬となり、補脾薬として食欲不振に利用されるそうです。また、ハシバミの樹皮はタンニンを多く含むことから、日本では革なめしにも使用していたそうです。